

Havelok (ll. 193-219)

彼ら（？）が留まり、夕食を食べようとしたとき、
緩い上着を着た下男が来て
彼と 60 人の屈強な男たちが、
平らにした剣と長いナイフを持って、
各々がとても頑丈な槍を手にして、
そして言った、「ドアを開けろ、知事バーナード！
早く開けて中に入れろ、
さもないとお前は死ぬことになるぞ、聖アウグスティヌスにかけて！」
バーナードは、非常に強いのだが、急いで立ち上がり、
急いで背中に鎧をかけ、
とても頑丈なおのを握り
まるで気が狂ったようにドアへ走った、
そして言った、「外にいるのは誰だ
そのように喧嘩を始めているのは
早くここから出ていけ、汚い泥棒め！
さもないと、人々が信じる神にかけて、
私はドアを開け放たなければならない、
私はお前たちの何人かを殺さなければならない、
そして私は残りの者たちを投げ入れなければならない
足枷をつけて非常に強く縛り付けなければならない！」
「あなたは何て言ったのか」下男が言った、
「我々が恐れていると思うのか？
ドアに体当たりしなければならない
お前を物ともせず、卑しい男め、今すぐに！」
彼はすぐに大きな石を手に取り
強い力でそれを投げ飛ばした
ドアに対して、そしてそれ（石？）は砕けた。

「言う」の意味推移

OED より

古英語： *queath* が最も一般に直接話法を導入する機能を果たしていた

say は様々な意味で用いられており、特に節とともに、間接話法や伝聞の情報を導入するときに用いられた。

古英語後期から中英語初期： *say* が *queath* の機能に取って代わるようになる

say の古英語での意味が *tell* に置き換わる

↑ 前置詞句 (*to*～) の登場

中英語終わり： *queath* が廃語になる (*quoth* を除く)

† *queath*, v.

1. a. *transitive*. To speak, say, tell.

(a) Without direct speech (quotation: eOE-c1450)

(b) With direct speech (quotation: OE-a1300)

quoth, v.

I. Past indicative.

1. Spoke, said.

a. *transitive*. Without direct speech. Now *archaic*. (quotation: eOE-1909)

b. *transitive*. With direct speech: with the subject either a pronoun in the first or third person, or else a noun, indicating that the subject's words are being repeated: said (he, etc.). Now *archaic*.
(quotation: eOE-2003)

MED より

quēthen v.

1. With direct discourse: (a) with a direct declarative, imperative, or exclamatory quotation: to say (sth.), command, exclaim; (b) ~ to (til, unto), with direct quotation: to say (sth.) to (sb.)

a1121 Peterb.Chron. (LdMisc 636) an.656: Seo kyning..cwæd luddor stefne, 'Ðancod wurð hit þon hæge Æl mihti God.'

※対応する OED の見出しは *quoth* となっている

seien v. (1)

1a. With direct quotation: (a) to say (certain specified words), utter; (b) to say (certain specified words to sb., to oneself, among a group, etc.)

a1121 Peterb.Chron. (LdMisc 636) an.675: Ða seide se kyning, 'Ealle þa þing þe min broðer Peada, [etc.]'

Havelok (ll.1-346)の *queath* と *say* の登場頻度

quaþ : 6 個

- l. 175 ‘Goddot,’ *quoth* he, ‘leue sire,
- l. 187 *Quoth* þe kok, ‘Wile I no more—
- l. 213 ‘Hwat haue ye seid?’ *quoth* a ladde,
- l. 227 ‘No!’ *quodh* on, ‘Þat shaltou coupe!’
- l. 305 ‘Allas,’ *hwat* Hwe, ‘þat Y was boren,
- l. 315 ‘Ya, leue, ya!’ *quod* Roberd sone,

sai: 7 個

- l. 107 And *seyde*, ‘Hauelok, dere sone,
- l. 171 And *seyde*, ‘Wiltu ben wit me?
- l. 198 And *seyde*, ‘Undo, Bernard þe greyue!
- l. 205 And *seyde*, ‘Hwat are ye þat are þeroute,
- l. 213 ‘Hwat haue ye *seid*?’ *quoth* a ladde,
- l. 224 And *seide*, ‘Her shal Y now abide.
- l. 322 (I *seye* was he nouth þe laste),

・ *quaþ* と *sai* は同数であり、*quaþ* はすべて直接話法、*sai* も 7 例中 5 例は直接話法が続いている
→ *say* が直接話法を用いるときに使われるようになっているが、*queath* もまだ使われている過渡期と考えられる（ただし、物語のため、間接話法があまり使われていない可能性はある）

・ Glossary p. 556 *quaþ*: pa. t. sg. said (quoting direct speech) より、*Havelok* では現在形での *queath* は使われなくなり、過去形での *quoth* のみ使われている（ただし、物語であるため現在形があまり使われていない可能性は高い）

・ *quoth* は前の発言の返答のときに使われていることが多い (l.175、187、213、227、315)
→ あくまでも *say* が直接話法を続けるときの「言う」の主要な表現手段であり、*quoth* は *say* が連続しないための別の言い方として用いられていたのではないか

参考文献

OED=*Oxford English Dictionary*, from <http://www.oed.com/>. Accessed on 28 September 2019.

MED=*Middle English Dictionary*, from <https://quod.lib.umich.edu/m/middle-english-dictionary/dictionary>.

Accessed on 28 September, 2019.